

# 大阪 保険医新聞

8/15 大阪府歯科保険医協会 発行人 志岐 敬 大阪市浪速区幸町1-2-33 電話(06)6568-7731(代表) http://osk-net.org/ 2018年第1306号 (毎月5、15、25日発行) ●定価 年間10,000円 月1,000円 ●1977年5月23日第三種郵便物認可

沖縄の「美ら海」

## 8月にも埋立海域へ土砂 節目迎える米軍辺野古移設

フォトジャーナリスト 新藤 健一

エメラルド色のサンゴ礁と海洋生物の多様性、そして琉球古来の伝統芸能と文化…。沖縄は1972年の返還から44年経った。いま世界に誇る沖縄の「美ら海」は国内だけでなく、外国人観光客も増えている。

沖縄県は4月、17年度の沖縄入域観光客数が過去最高の957万9000人に達したと発表した。国内客、外国客ともに過去最高を5年連続更新、ハワイの観光客数を初めて上回った。17年度のハワイの観光客数は938万人だっ

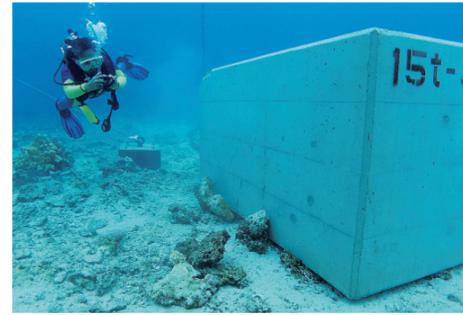
たが、平均滞在時間や消費額で沖縄は依然、ハワイに及んでいない。

沖縄戦で4人に一人が犠牲になった沖縄の悲願は米軍基地のない島だ。だが基地経済に頼らず、観光経済で自立を目指す沖縄はいま重大な局面にある。

米軍普天間飛行場の辺野古移設計画を強行する政府はこの8月17日にも埋め立て海域への土砂投入に踏み切る。これに反対する翁長雄志知事は工事差し止め命令で対抗。

この夏も炎天下、辺野古のキャンプ・シュワブゲート前には米軍普天間飛行場の移設反対する市民が機動隊に囲まれ、埋め立て海域には抗議のカヌー隊と小舟が海保と対峙している。

キャンプ・シュワブを囲む大浦湾には貴重種のサンゴや海草(ウミクサ)が生育する豊穡の海。国にとっても埋め立て区域への土砂投入は初めてで、11年度以降の完了を目指す基地移設計画も大きな節目を迎える。



翁長知事誕生直後の2015年1月末に大浦湾に投下されたコンクリートブロック。海底のサンゴをバターのように押し切っている(撮影・牧志治)



辺野古イノー(礁池)のK4護岸。洗浄不十分な採石を海中に投下して40%もの海域を囲む(撮影・牧志治)



辺野古・大浦湾

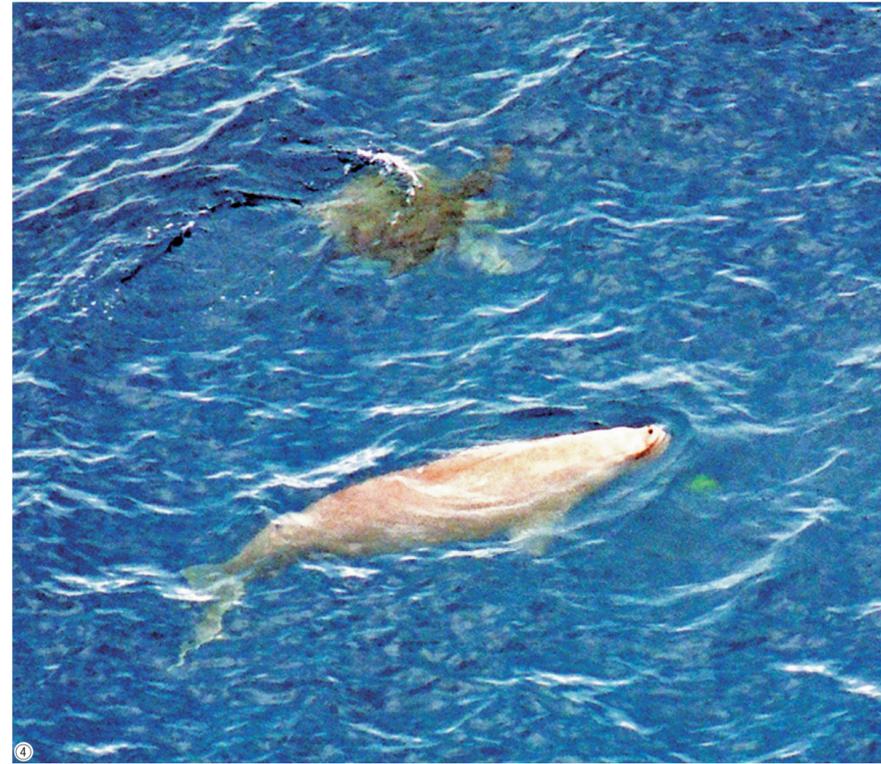


紙 上 写真展

# 辺野古 命はぐくむ悠久の海

米軍の新基地建設埋め立て現場の辺野古・大浦湾。海を溶れば多種多様な生き物による命の営みは幻想的で、息をのむ光景が広がる。大量の土砂が投入されれば一度と「美ら海」は、戻らない。

- ① 3千年もの歳月をかけて成長した巨大なアオサンゴの群落 (撮影・中村卓哉)
- ② 辺野古の海に連なるユビエダハマサンゴの群落 (撮影・新藤健一)
- ③ 一面に広がるテーブルサンゴ (撮影・中村卓哉)
- ④ 辺野古の海を回遊するジュゴンとウミガメ。絶滅が危惧されるジュゴンの口元には海草(ウミクサ)が浮かんでいる (撮影・中村卓哉)
- ⑤ 大浦湾にはアダンが茂り、ウミガメが産卵に訪れる。遠くにキャンプ・シュワブ (撮影・新藤健一)
- ⑥ 護岸に囲まれた水域の海草(ウミクサ)とシラヒゲウニ。辺野古イノー(礁池)には、ジュゴンの餌となる7種類の海草(ウミクサ)が繁茂している (撮影・牧志治)
- ⑦ サンゴ礁に棲むコブシメ(コウイカ)のカップル (撮影・新藤健一)
- ⑧ パラオハマサンゴをはじめ様々な種類のサンゴが集まる大浦湾の「中ノ瀬」 (撮影・中村卓哉)



**砂浜に帰れないウミガメ 新基地建設断念させたい**

牧志 治 (辺野古抗議船長)

先日、抗議船近くをすれ違うアカミガメと出会いました。浅い海の辺野古のイノー(礁池)での梅雨期の出来事。ウミガメは卵から孵ると大海に泳ぎだして大きく成長して故郷に産卵に戻ります。きっと出会ったカウミガメも太平洋を右回り旅をして、大きくなって姿を失って、生まれ島の辺野古の砂浜目指して産卵に来たに違いない。

しかし帰った生まれ故郷は、新基地建設の埋め立て工事のために護岸が造成されてしまって砂浜が消えてしまっています。海上保安庁の警備艇が高速で走り回る海を怖がりながら、ここに行けば砂浜にたどり着けるのかウロウロと泳いでいたのでしょう。アカミガメは絶滅危惧種のウミガメです。

5800種もの生きものが棲む生物多様性豊かな辺野古・大浦湾の海が、沖縄の民意を無視した政府の理不尽な工事で、危機的な状況を迎えています。

様々な法令違反の下で行われている辺野古新基地建設を政府に断念させて、このかけがえない海域を守り、世界に誇る海洋保護区にしたいものです。

**想像を超えた光景広がる 残さなければならぬ海**

中村 卓哉 (水中写真家)

今から17年前、沖縄に移住し海の中写真を撮り始めました。子どもの頃、はじめはダイビングをした沖縄の海に特別な想いがあったからです。そのころから名護市の東海岸へ普天間基地が移設されるといふニュースがしきりに流れていました。

私は海の中がとも気になり辺野古へと車を走らせました。漁師に頼み、辺野古漁港から沖合の平島に渡り海へと漕ぎ、想像を超える光景が広がっていました。

遠浅の海岸に広がるリーフには、たまたまのスズメダイがむれ、海草(ウミクサ)の森が太陽の光に透らされてキラキラと輝いていました。この海は、残さなければならぬ美しい海なのだと強く感じました。

以来、類い稀な大浦湾の貴重な環境を伝えるためにこの海の撮影を続けています。